

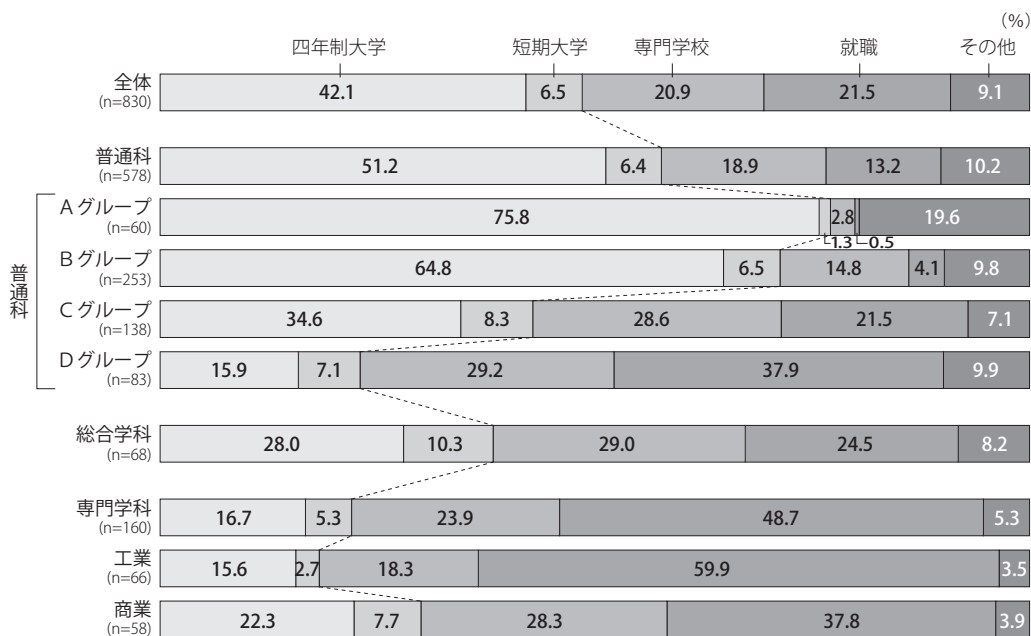
第5章

学校としての進路実績と
今後の進路指導方針

第1節 卒業後の進路実績

卒業後の進路実績について校長にたずねたところ、公立高校全体の「大学」（「四年制大学」「短期大学」の合計）への進学率は48.6%であった。四年制大学への進学者のうち、AO・推薦入試による大学進学者の割合をみると、普通科Aグループでは1割未満であるのに対して、総合学科では7割5分、普通科Dグループ、専門学科では8～9割に達している。

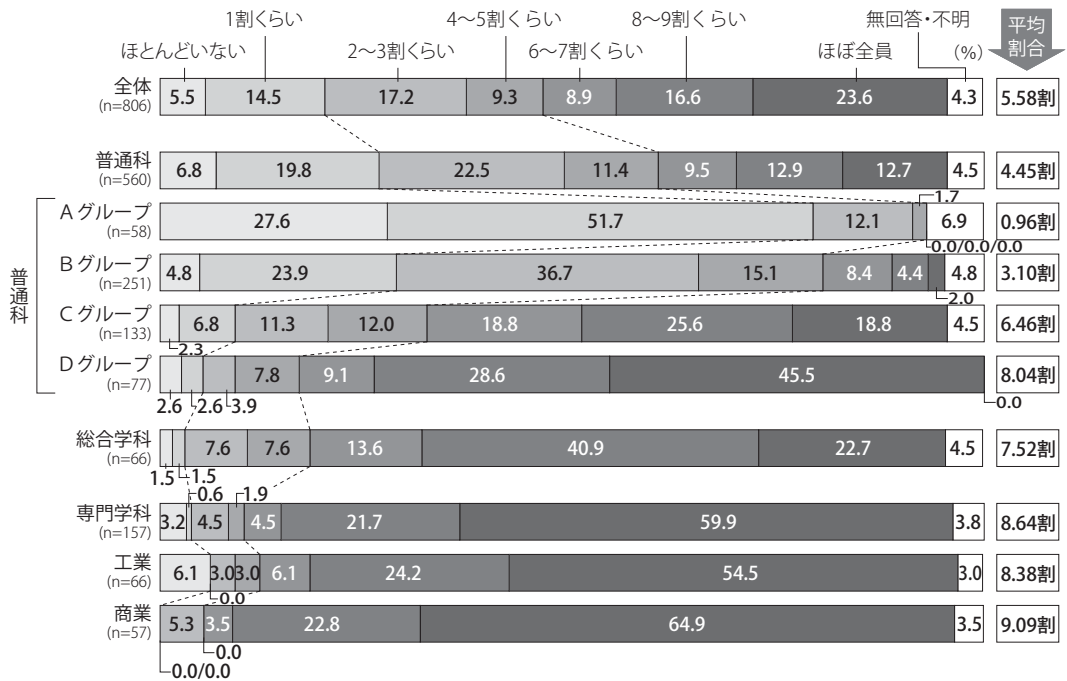
図5-1-1 卒業後の進路実績（昨年度）【校長調査】



卒業後の進路実績について校長にたずねたところ、「大学」（「四年制大学」「短期大学」の合計、以下同）への進学率は、全体平均で48.6%であった（図5-1-1）。なお、「専門学校」への進学率は20.9%、「就職」は21.5%であった。次に、学校種別に「大学」への進学率をみると、普通科Aグループが77.1%と最も高く、次に普通科Bグループが71.3%と高かった。普通科Aグループについては、「その他」

の比率が19.6%と、全体平均よりも10ポイント以上高くなっている。おそらく、浪人する者が一定数ここに含まれるものと考えられる。その他「大学」への進学率が高い順に、普通科Cグループ(42.9%)>総合学科(38.3%)>普通科Dグループ(23.0%)>専門学科(22.0%)であった。なお、専門学科については、商業における大学進学率(30.0%)が工業(18.3%)と比べて10ポイント以上高かった。また、四年制大

図5-1-2 四年制大学進学者のうち、AO・推薦入試による大学進学者の割合【校長調査】



注1) 昨年度、四年制大学への進学者がいたと回答した校長 (n=806) のみ分析。

注2) 「平均割合」は、「ほとんどいない」を0割、「1割くらい」を1割、「2~3割くらい」を2.5割、「ほぼ全員」を10割のように置き換えて、「無回答・不明」を除いて算出した。

学への進学者のうち、AO・推薦入試による大学進学者の割合をみると、普通科 A グループでは「1割以下」(「ほとんどいない」「1割くらい」の合計)と回答した比率が79.3%であったのに対して、「6割以上」(「6~7割くらい」「8~9割くらい」「ほぼ全員」の合計)と回答した比率は、普通科 C グループで63.2%、普

通科 D グループで83.2%、総合学科で77.2%、専門学科で86.1%と高かった(図5-1-2)。学校種ごとのAO・推薦入試による大学進学者の割合の平均値をみると、普通科 A グループは1割未満であるのに対して、総合学科では7割5分、普通科 D グループ、専門学科では8~9割にも達していることがわかる。

第2節 今後の進路指導方針

86.7%の高校が「国公立大学への進学者数」を「今よりも増やす」と回答。普通科Dグループでも77.1%、専門学科でも72.5%が「今よりも増やす」と回答している。

図5-2-1 国公立大学への進学者数【校長調査】

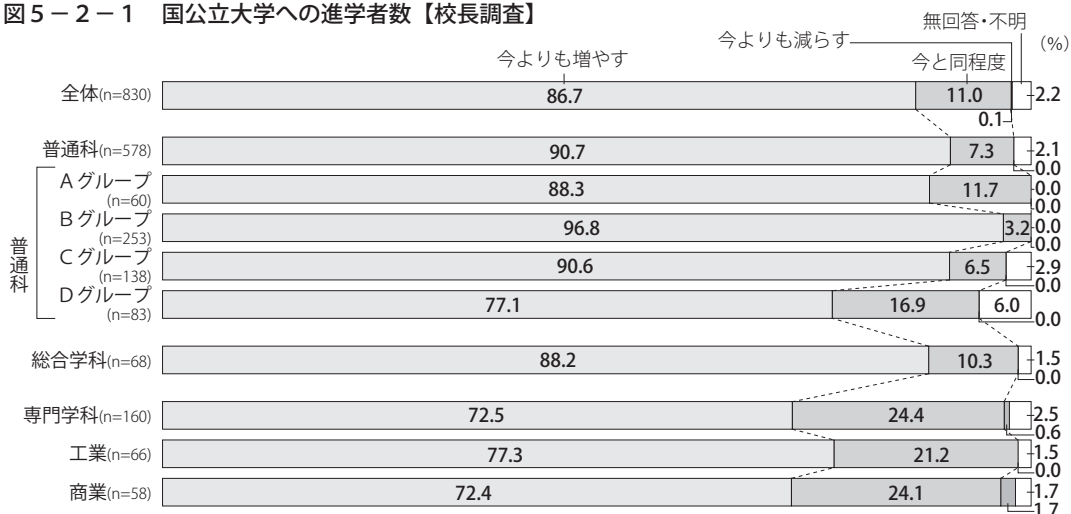
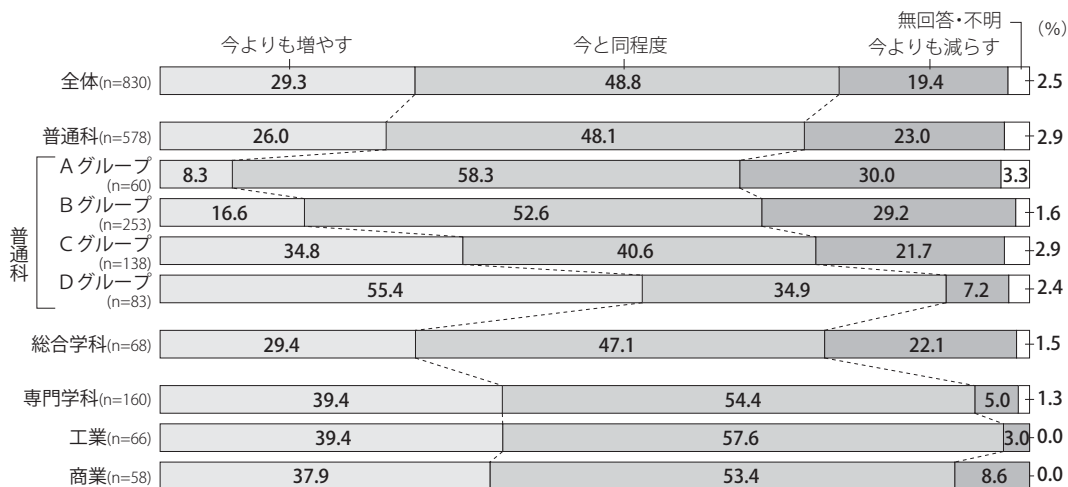


図5-2-2 四年制大学への進学者のうち、AO・推薦入試による進学者数【校長調査】



今後の進路指導方針について校長にたずねたところ、「国公立大学への進学者数」について「今よりも増やす」と回答した比率が86.7%ともっとも高かった(図5-2-1)。就職や専門学校への進学者が多い普通科Dグループでも77.1%、就職が多い専門学科でも72.5%が「国公立大学への進学者数」を「今よりも増やす」と回答している。

次に、「四年制大学への進学者のうち、AO・推薦入試による進学者数」についてみると、学校種によって大きな差が確認できる。普通科Aグループでは「今と同程度」(58.3%)と「今よりも減らす」(30.0%)を合わせると9割近くになるのに対して、普通科Dグループでは「今よりも増やす」と回答した比率が55.4%と半数を超える(図5-2-2)。

図5-2-3 専門学校への進学者数【校長調査】

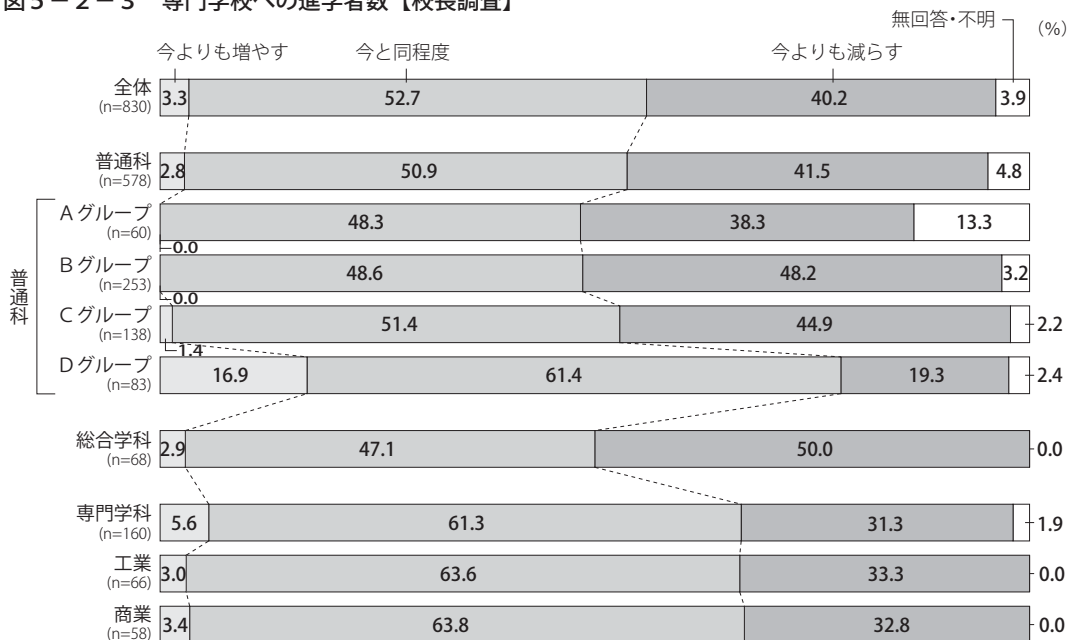
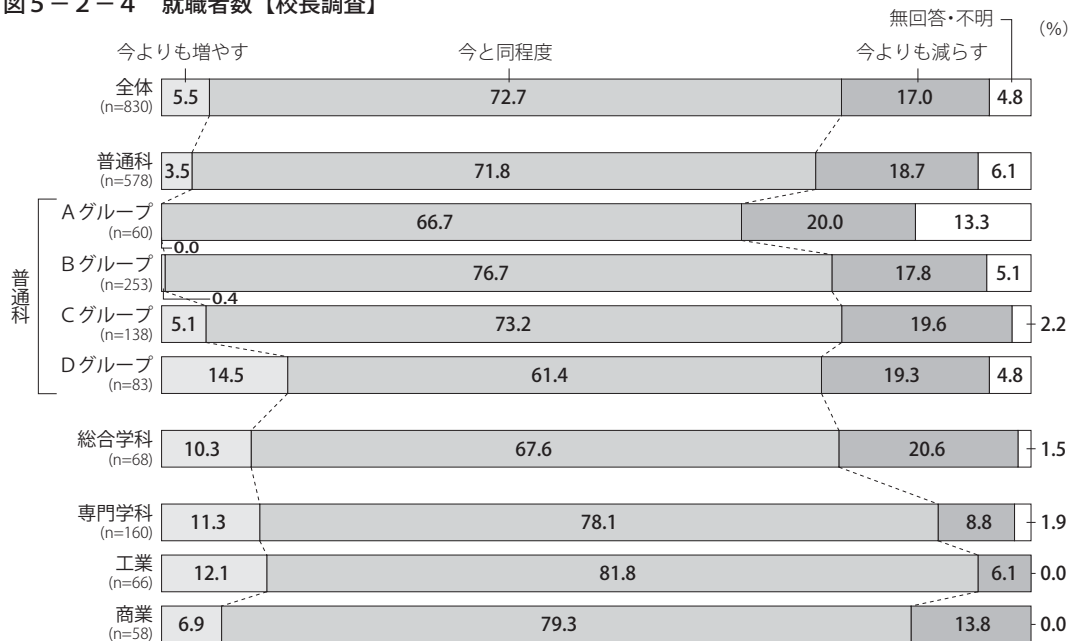


図5-2-4 就職者数【校長調査】



「専門学校への進学者数」については、どの学校種でも「今と同程度」と回答した比率が5～6割ともっとも高い(図5-2-3)。ただし、普通科Dグループでは、他のグループと比較すると「今よりも増やす」と回答した比率が16.9%と高くなっている。

最後に、「就職者数」については、どの学校種でも「今と同程度」と回答した比率がもっとも高くなっている(図5-2-4)。就職者の多い普通科Dグループや専門学科でも、「今よりも増やす」と回答した比率は1割台にとどまっている。

第3節 高大接続の課題（高校から大学への要望）

校長に、大学への要望を自由記述形式で回答してもらった。内容を大きく分類すると、「大学入試制度の改革」に関する要望が多くみられた。その他、「大学の教育内容や指導体制の充実」「大学の進路（就職）指導やキャリア教育の充実」に関する要望もみられた。

■「大学入試制度の改革」について

- 「各大学の入試制度（入試科目や入試方法、入試時期など）が複雑化して、その対応に苦慮している」（男性、57歳、普通科）
- 「大学の入試制度が変わるたびに高校では学習指導に大きな影響を受ける。学生集めのための入試制度改革ではなく、生徒の学力を高めるために必要な入試制度の抜本的改革をお願いしたい」（男性、59歳、普通科）
- 「AO・推薦入試が拡大されつつあるが、高校生のうちにしっかりやるべきことができるよう配慮してほしい。時期が早すぎて落ち着かないし、合格後の勉強にも身が入らない現状がある」（男性、58歳、普通科）
- 「大学入試が高校教育に与える影響が大きいので、学力をもっと入試で重視してほしい。私大でも最低3科目以上課すべきだと思う」（男性、57歳、普通科）
- 「専門高校の特別推薦枠の拡大を検討していただきたい（将来のスペシャリストの養成のため）」（男性、53歳、専門学科）

■「大学の教育内容や指導体制の充実」について

- 「高校の受験勉強だけでは、どうしても偏った教養になってしまう。専門に入る前の教養講座の充実を期待したい」（男性、58歳、普通科）
- 「学生の学習意欲や研究意欲を高める授業の工夫・改善、学生へのメンタルクリニックの体制充実を求む」（男性、54歳、普通科）
- 「初等中等教育で養った基礎学力を最大限に活性化させて、真の専門知識、高等技能の習得を図り、多様化し変動する現代社会を乗り切る力をつけさせてほしい」（男性、59歳、普通科）

■「大学の進路（就職）指導やキャリア教育の充実」について

- 「一人ひとりへのきめ細かな指導体制や就職等の支援、相談体制の確立を求む」
（男性、59歳、普通科）
- 「大学を卒業して必ず就職できるようにしてほしい」（男性、59歳、普通科）
- 「大学においても進路指導およびキャリア教育に力を入れてほしい。それをセールスポイントとした大学が増えてほしい」（男性、57歳、専門学科）